

「リスク」と「リターン」の関係

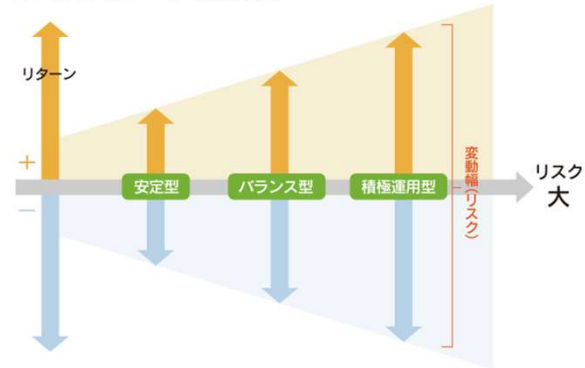
投資信託を理解するときは、リスクとリターンの関係をよく知ることが大切です。一般的には、リスクのことを「危険」と訳すことが多いのですが、投資の世界では「値動きの幅」を意味する言葉として使われています。よってリスクが大きい商品とは、価格がプラスにもマイナスにも大きく変動する可能性のある商品ということになります。リスクを小さくしようとするれば期待される収益は限られ、収益を追求すると、その分リスクは大きくなります。

投資目的について

リスク	投資目的
小	① 収益性より安全性を重視
	② 元本の安全性に配慮しながら、収益性を重視
大	③ 積極的に値上り率を追求

※上記の表は一般的な傾向です。相場により実際の動きと異なる場合があります。
 ※上記の投資目的の分類は、当行が分類したものです。将来の運用成果などを保証するものではありません。

リスクとリターンの関係図



投資信託の主なリスクとしては、一般的に以下の5つがあります。

(1) 株価変動リスク

投資信託が組み入れている株式の価格が上下することによって、基準価額が変動することです。株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績の変化や、投資家が株式を売買することでも変動します。投資対象として組み入れた株式の価格が下落すると、基準価額が下落する要因となります。

価格変動の例	株価	基準価額
景気が回復 会社の利益拡大	↑	↑
景気が減速 会社の利益減少	↓	↓



(2) 金利変動リスク

投資している国の金利水準の変化により債券価格が上昇、下落し、基準価額が変動することです。投資対象として組み入れた債券の価格が下落すると、基準価額が下落する要因となります。債券の残存期間が長いほど、金利変動に対する債券価格の変動（感応度）は大きくなります。

金利変動の例	債券の価格	基準価額
金利の低下（景気減速）	↑	↑
金利の上昇（景気回復・インフレ）	↓	↓

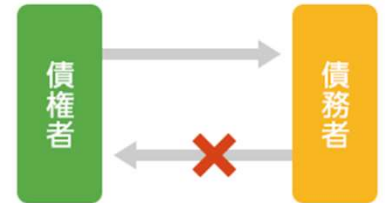


「リスク」と「リターン」の関係

(3) 信用リスク

投資している債券の発行体の返済能力などの変化により、債券の格付が上下し、基準価額が変動することです。投資対象として組み入れた債券・有価証券等の発行体において、利払いや償還金の支払いが遅延したり、債務不履行に陥る可能性が高まると基準価額が下落する要因となります。

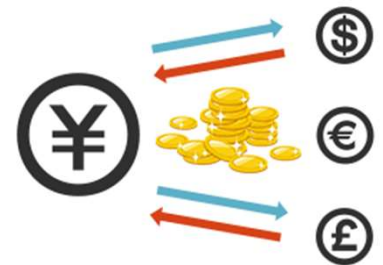
信用リスクの例	債券の価格	基準価額
債券格付上昇	↑	↑
債券格付下落	↓	↓



(4) 為替変動リスク

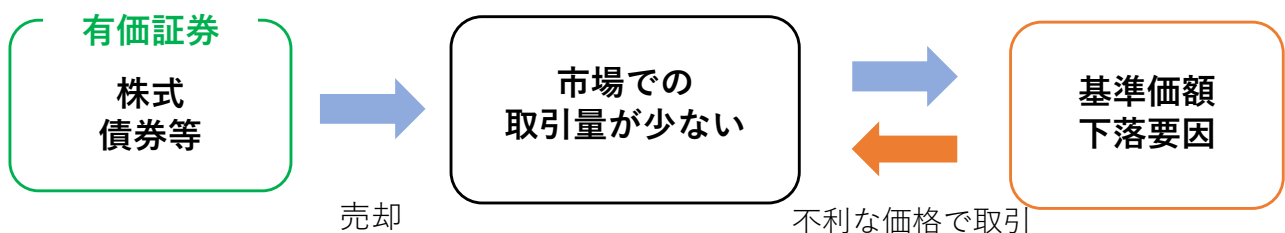
投資している外貨建資産の円換算価格が為替レートの変動により上下し、基準価額が変動することです。たとえば、米ドル建て資産に投資している金融商品において、為替レートが米ドルに対して円安になった場合は円換算した投資資産が増加し、逆に円高になると投資資産は減少し、基準価額が下落する要因となります。

為替変動の例	円換算後の価格	基準価額
円安 ↘	↑	↑
円高 ↗	↓	↓



(5) 流動性リスク

有価証券を売却・購入する際に、需要がなく売却・購入が不可能等となるリスクです。投資対象として組み入れた有価証券の市場規模が小さく取引量が少ない場合や市場が急変した場合、委託会社は希望する時期や価格で売却できず、基準価額の下落要因となります。



商品によってリスクは異なります。各リスクを理解し、それぞれの投資信託のリスクについて理解することが大切です。各商品のリスクの詳細につきましては、最新の投資信託説明書（目論見書）等をご覧ください。